

## 本年も、よりいっそうの活躍と交流を。

明けましておめでとうございます。

モータースポーツを楽しむ者の集まりであります、わがCMSCも、はや30年以上の歴史を重ねてまいりましたが、特に昨年は充実と発展の年であったと思います。各支部におかれましても、主催大会などでは一般参加者も着実に増加しており、モータースポーツの普及に貢献しているのではないかと、ささやかながら自負しております。

新たにCMSC大阪が発足し、新しい仲間が増えたことは、大いに歓迎したいと思います。また、8月に福島で開催された夏の全国大会には、150名以上の会員が駆けつけ、ジムカーナやパーティに楽しいひとときを過ごして互いに交流を深めました。

さらに、クラブ員の各種競技活動では、上位入賞のうれしい知らせが1年を通じて続々と寄せられました。CMSCジャーナルでも随時ご紹介してまいりましたが、全日本ダートトライアル選手権では、CMSC勢がAIIIクラスで3勝と大活躍。ミラージュカップ・フレッシュマンシリーズ2年連続および東北シリーズ・フォーラスカップ3年連続チャンピオンなどをはじめ、輝かしい成績をおさめられました。秋には、待望の新型ランサー／ミラージュの試乗会が開かれましたが、その高い戦闘力を得て、今年はいっそう活躍される方も多いことでしょう。

CMSCも、いまや全国に16支部・600余名のメンバーを擁する大きな組織となりました。皆様におかれ

ましても、CMSCの会員であるというプライドを、大切にしていきたいと思えます。

今年も、モータースポーツのいろいろな魅力を存分に楽しんでください。



(CMSC会長 外川一雄)

第7戦を制した赤羽選手の走り。



## 全日本ダートラ、CMSC勢が制覇!



第8戦優勝の榎田選手

### 全日本ダートラ第7戦10月13日 全日本ダートラ第8戦11月23日

全日本ダートラ第7戦が10月13日にテクニクス・タカタで開催され、AIIIクラスでCMSC勢が大活躍。1位～5位を独占するという快挙でした。特に、優勝したCMSC山形の赤羽選手は、シリーズ参戦4年目でうれしい初優勝となりました。

第7戦のコース設定は、2ヵ所の200mの直線と2つの鋭角コーナーが特長のハイスピード&テクニカルコース。赤羽選手は、直線での一気の加速と鋭角コーナー手前のブレーキングポイントが絶妙。固い路

面が露出した2ndトライで1本目を3秒も縮める快走を見せ、念願の1位を獲得しました。

そして迎えた最終戦のオールスター戦は、オープンしたばかりのトライアルゾーン・ニイガタで11月23日に開催。遠く日本海を望むコンパクトなコース設定ながら、中速の外周とテクニカルセクションが組み合わせられ、しかも全体が傾斜しており、たったひとつのミスも許されないシビアなレースとなりました。ここで第7戦の雪辱を果たしてAIIIクラス優勝を

手にしたのが、CMSC岐阜の榎田選手。今回は1本目トップながら2本目で逆転された展開とは逆に、1本目の11位から見事に2本目でベストタイムをたたき出しました。これで'91年の全日本ダートラ戦は全戦終了し、CMSC勢はAIIIクラス2位(群馬・荒井信介選手)、3位(山形・赤羽政幸選手)、4位(札幌・宝田芳浩選手)、6位(岐阜・榎田正文選手)、7位(山形・砂塚明男選手)、9位(大阪・杉本達也選手)、と実力を発揮今年も一層の活躍が期待されます。

# 赤羽政幸選手(CMSC山形)、念願の全日本制覇

**CMSC山形**  
**全日本ダートトライアル第7戦**  
**10月13日 テクニクスステージ・タカタ**

全日本選手権第7戦の舞台となった「テクニクスステージ・タカタ」は、比較的好きなコースです。このイベントでオールスター出場の権利も決定するので、気分が入っていました。コースコンディショ

ンは、前日の公開練習から素晴らしく、路面は2トライ終わってもほとんど荒れていませんでした。

1本目はうまく走れましたが、多少抑えすぎたようで、4位のタイムでした。2本目は自分のイメージよりアンダーステアで走ってしまいましたが、アクセルを抜くほどではないのが良かったのか、全日本シリーズ4年目で、念願の初優勝。ほんとうにうれしい結果となりました。もしかすると、正月にこ

のコースに練習に来たのも、よかったのかもしれませんが。帰りの広島から栃木までの道のりが、成績がいいと短く感じるようで楽でした。これからも、帰りが短く感じられるようにがんばりたいと思います。

(CMSC山形 赤羽政幸)



A III優勝の赤羽選手(中央)

# 大量エントリーで大成功

**CMSC香川**  
**'91CMSCダイヤスターラリー '91CMSCダイヤスタージムカーナ**  
**8月31日・9月1日**



CMSC香川のダイヤスターラリーも、復活してはや3年目となりました。昨年のトラブルを教訓として、今年はなんとしても成功せねばというプレッ

シャーと戦いながら、コース作りに走り回ること、丸2ヶ月。開催前の2週間は、夜はほとんど毎日、山の中にこもっていました。心配されていたエントリー一台数は、なんと68台の大量エントリー。涙ながらに(?)8台ほどご遠慮願ったほどでした。しかし、このフルエントリーが、またプレッシャーとなり、まったく気の抜けない2日間となりました。

競技の方は、1ステージ第1SSでコースをふさいでリタイヤした車両があり、Cクラスは、このSSがキャンセルとなりましたが、その後は順調に進行。午前4時過ぎ、ラリーは無事終了しました。

ジムカーナの方は、今回が初めての主催でした。使用したコースは、本部席から全コースが見渡せる

うえ、ダートラと違って、スタックやコアウト、転倒(たまにある)する可能性が非常に少なく、クラブ員はリラックスして楽しむことができたようです。96台のエントリーによる競技は、トラブルもなく、午後3時過ぎ表彰式を終わりました。また来年もラリーとジムカーナを1戦ずつ開催する予定です。お近くの支部の方、ぜひお気軽にご参加ください。

(CMSC香川 白井 修)



# 初級者に好評!秋の大運動会トライアル

**CMSC帯広**  
**秋の大運動会トライアル**  
**10月20日**

毎年恒例のジンギスカンパーティがメインとなった感のある、初級者中心で行われるダートトライア

ル。今年も、ダートラ初参加のエントラントのパフォーマンスで、楽しい一日となりました。

三菱賞は、ダートラ出場2回目という松島ギャランが、ベテランたちを引退に追いやる果敢な走りで、1位を獲得しました。残念なのは、写真係の福本選手が初めての好成績に浮かれすぎ、写真を1枚も撮

っていなかったこと。あの楽しいシーンの数々は、みんなの胸の中にずっととっておいてほしいです。

(CMSC帯広 青沼達也)

# 新ランサー/ミラージュに全開試乗会!

去る11月2日、オートランド千葉で開催された「新型車ラリー仕様車試乗会」に参加してきました。各支部の参加定員2名とのことですので、参加出来なかった皆さんに、新型ランサー/ミラージュのご報告をいたします。

用意されていた試乗車は、10月中旬に発売されたばかりのランサーRSとミラージュRS。どちらもフルラリー仕様車です。パーツ類は旧形からの流用ができないくらい、ほとんどが新開発されたものとのこと。特にパワートレイン系は、ギャランクラスのパワーにも耐えられる強度と容量を持っているとのことでした。

さて試乗の方ですが、約50名が試乗し、ほとんどの人が全開でコースを周回していました。パワーは圧倒的で、加速感、体感スピードは、冗責分のギャランに勝るとも劣らないもの。実パワーではギャラ

ンより劣るものの、車のサイズ、車重に対してのパワーとしては、あり余るものでした。ツイスティなコースなら、ギャランをしのぐタイムも可能だと思います。また耐久性も抜群で、全日本クラスを筆頭に多数のドライバーが全開走行を続けたにもかかわ

らず、ノートラブルでした。'92年のモータースポーツ界は、この2台が大暴れる予感がしました。

(CMSC福島 菅野 茂)



エンジンルームを見る目も真剣。



ミラージュ試乗の模様。

# 気迫で逆転!連続チャンプ!

CMSC山形

## 小川選手の'91シーズン

おかげさまで'91年もミラージュカップ・フレッシュマンシリーズと東北シリーズ、フォーラスカップの両シリーズでチャンピオンを獲得することができました。

フレッシュマンシリーズは、開幕戦で2位に入り、幸先き良いスタートを切ったものの、続く第2戦、第3戦で連続リタイヤ。おまけに第3戦で転倒してしまい、車は全損。ポイントもトップとは35点差と大きく離され、シーズンは終わったと思っていました。

ところが、組み上げたままでセッティングもイマ

イチの車で出場した第4戦で優勝することができ、シリーズトップとは15点差。がぜんハッスルして臨んだ最終戦は、優勝しても相手が入賞すればチャンプならずという状況の中、プレッシャーに負けずに気合いを入れ、ポールtoフィニッシュでゴール。ライバルはリタイヤしており、なんとか逆転チャンプをつかむことができました。

東北シリーズの方は開幕戦から好調で、1~3戦で3連勝。続く第4戦で2位に入り、3年連続のチャンピオンを決定しました。最終戦は欠場しようかと思いましたが、第4戦で2位だった自分に納得がいかず、優勝狙いで出場。改心の走りでも優勝し、有終の美を飾ることができました。この最終戦では、

同じ山形の東江選手も3位で表彰台に上がり、Sリーグランキングも3位に食い込んで、万々歳でした。

'91年は、この2シリーズの他にインターナショナルシリーズやN1耐久にも何戦か出場しましたが、'92シーズンはフレッシュマンと東北シリーズは若手をどんどん起用し、自分はインターナショナルとN1耐久の両シリーズを追うつもりでいます。

(CMSC山形 小川日出生)



# 運営は抜群のチームワークで

CMSC島根

## 日本海チャンピオンシリーズ

10月20日 備北ハイランドパーク

秋深い10月20日、「日本海チャンピオンシリーズ」の一戦として30台のエントリーを集め、ジムカーナを主催しました。会場の備北ハイランドパークは、中国地区ジムカーナのメッカで、タイトで滑りやすいコース。幸い好天に恵まれ、ミスコースもほとんどなく、順調に競技は進むはずだったのですが、なぜか皆さん光電管への体当たりがお好き!光電管が

何度もストライキをおこしました。また、ゴール前の「鬼門」パイロンは何十回となく引きずられ、見事にパイロン寿命を全うしたのは涙なくして語れません。新型車発表会と同日だったため、少ないオフィシャルにも関わらず、殆ど故障車もなく、キチンと運営できたのは、クラブ員のチームワークの賜物と自信を深めた幸いです。

最後に、三菱でもぜひ「ジムカーナ無敵マシン」を作ってください。試走車でのブッチギリのタイムを、レースで出したい!

(CMSC島根 古藤浩美)



# 好評のコース設定で熱戦

CMSC山形

## 東北ジムカーナシリーズ最終戦

10月6日 蔵王リゾート駐車場

10月6日、東北ジムカーナシリーズ最終戦を、9月にオープンしたばかりの蔵王リゾート駐車場で開催しました。CMSC山形のジムカーナ開催は3戦目となるわけですが、東北シリーズ(ダートも含めて)は初めてであり、コース設定にはかなり気を使いました。駐車場なのでパイロンコースになりがちですが、パイロンはあまり多くせず、3速全開・ジャン

ピングスポットありの高速コースを設定しました。シリーズ最終戦ということで、既にチャンピオンが決まったクラスもあり、台数的に心配されましたが、幸い96台の参加がありました。各エントラントは、今年の締めくくりと来年へのパワーアップのために、最後まで熱戦を繰り広げました。コース設定は、たいへん好評でした。

またオフィシャルに関しては、コース上のオイル清掃やコース員のトラブルなどでフル回転の競技会になってしまいましたが、次の開催に向けてのいい勉強になりました。

'91年はこれで全部終了したわけですが、ダート1回とジムカーナ2回の開催でした。'92年の同様に年3回のイベント開催と、クラブ員の多くのイベントへの参加を目標に、皆でがんばりたいと思います。

(CMSC山形 菅野 茂)

▼三菱賞第一位の黒岩選手



雨にもかかわらず熱心にアドバイスを受ける参加者▲

# '91B・C地区戦にエントリーして

CMSC群馬

## '91B・C地方選手権ラリー参戦記

今年よりB・C地方選手権ラリーに出場し、とてもすばらしい数々の経験をしました。仕事の関係上、全戦フルエントリーができなかったものの、7戦中6戦にエントリーし、参加しました。

クラスはAクラス。乗っているマシンは、もちろんミニカダンガンであり、私はナビゲーター、ドライバーは同じCMSC群馬の小林選手。自他共に認める最強コンビで、1年間を戦ってきました。今年を振り返ってみてわかったのは、たったひとつのミスが

勝敗を決めてしまうということ。またそれだけに、大切な場面でいかに勝負強さを発揮できるかが求められるということです。

成績の方は、第1戦のCMSC青森主催のウィンターラリー2位が最高で、あとは納得のいく成績とは言えませんでした。ダンガンは速くて安定していて、それにもましてとても丈夫なマシンであるのに、その戦闘力を生かしきれなかったことがとても残念です。

この1年に経験したことを元に、'92以降もダンガンと共により上位の成績をめざし、栄光の優勝に向かってがんばりたいと思います。最後に、1年間お

世話になったサービスの方々に始め、皆様たいへんありがとうございました。来年もよろしくお願いたします。

(CMSC群馬 金子誠司)



小林選手(左)と金子選手(右)

# '91 RALLY OF MALAYSIA 参戦記

CMSC青森 大西康弘

SHELL CENTENARY RALLY CHAMPIONSHIP 1991

海外ラリー初挑戦を見事に失敗した昨年の苦しい出から、今年マレーシア選手権に参戦しましたので、ご報告します。

シリーズの名称は、SHELL CENTENARY RALLY CHAMPIONSHIP 1991といい、ラリーアートオーストラリアからR、ダンカートン、トヨタマレーシアからJ、ポートマン、フォードはイギリスの強豪M、ラベエル、シェルチームの遠藤さんなど、我がチームも含めてたくさんの強豪選手が参加。非常にやり甲斐のあるシリーズです。

車両は、昨年同様にマレーシアの国産車プロトンサガをタスカ・エンジニアリングの手によりグループSに改造したプロトン・プロトタイプ4WDを使用。チーム名はPERT(ペトロナス・イオン・レーシングチーム)。国営企業であるイオンのワークスチームで、マレーシアNo.1ドライバーのH、ヤップ、オーストラリアのトップドライバーのG、カー、そして日本からCMSCを代表して僕が参加しました。さて、2/2~3に行われた第1戦では、後半の追上げがきいて総合2位、グループSクラス1位でゴール。トップがダンカートン、2位大西、3位がチームメイトのG、カーといったオーダーで、幸先の良い出だしとなりました。

第2戦は4/27~28にマレーシアの東海岸クアンタンで行われ、非常にスリッピーな路面に悪戦苦闘。数度コースアウトするも、総合3位、クラス2位でゴール。この時点で、R、ダンカートン2連勝、僕とG、カーが2・3位を分け合い、シリーズ同点の2位。終盤の成り行き次第ではシリーズチャンピオンも狙える位置につけていました。

第3戦は6/15~16にクアラランブールの南のポート・ディクソンを起点として開催。このコースは、

例年RALLY OF MALAYSIAの2~3レグで使用されるコースのため、ラリー前のレッキは特に重点的に行って臨みました。ところが、スタートそうそうの第2レグで水たまりを走破した直後にエンジンがストール。後でわかったのですが、どうも室内にあるコンピュータBOXのコネクタに水が付いてしまったらしく、アンラッキーなトラブルでリタイアとなってしまいました。しかし、2連勝しているR、ダンカートンがフロントサスをふっ飛ばし、シリーズ同点2位のG、カーも150km/hのまま大木に激突し、ともにリタイア。僕にとっては、大きな一戦を落とした結果となりました。

8/24~27、いよいよ'91 RALLY OF MALAYSIA。これは、昨年僕が橋にフロントタイヤをヒットし、人生最大の絶望を味わったラリーですが、今年は絶対完走と、3位以内を目標に(内心は優勝)、約10日間のレッキをして本番に挑みました。アジアシということで、マツダのR、ミレンもエントリーしており厳しい戦いが予想されました。

第1レグは8ヶ所のSS、SSトータル60km、SS1の3.2kmのダートトライアルでは、2番時計、しかし続くSS2から思ったようにタイムが伸びず大苦戦。サービスで車高を前後10mmずつ下げてみたが、こんどは前車の巻き上げるホコリで何も見えず。何とか1レグをゴールしたときには、5位まで順位を下げていました。第2レグはこのラリー最長の勝負どころ。14SS、SSトータル221kmで、ハイスピードのロングステージが続きます。このステージでポジションアップを狙い、積極的にアタック。先行するミレンの車にターボトラブルが発生し、結局2位でゴールした我々が総合3位に浮上しました。ところが、クアラランブールまでの長いロードペナルティで、大渋滞のため4分のロードペナルティ。ここで登場したのが、あのラリー界の偉人、加勢選手をも操る林ナビ。さっそく競技長にかけあい、30分

後には見事にノーペナルティを勝ち取る!!この時ほど、彼が偉大に見えたことはありませんでした。

第3レグは10SS、SSトータル158km。結局、ここでは上位陣には何も起こらず、そのままゴール。優勝R、ダンカートン、2位R、ミレン、我々は総合3位。グループSクラスの優勝を果たし、インターナショナルラリーのビッグイベントを無事初走しました。完走を意識しすぎ、優勝争いができなかったものの、このラリーを通じて学んだ多くの事は、次回からのステップに役立つことと信じています。最後に、いつも温かい声援を送ってくれるCMSC青森の皆さん、ラリーを共に戦ってくれたメカニックの皆さん、石黒社長、ラリーアートの皆さん、本当にありがとうございます。CMSC青森からWRCへ!夢はまだ果てしなく続く。(CMSC青森 大西康弘)



昨年のウップンを吹き飛ばす大西選手の豪快な走り。



表彰台に立つ大西選手(左)

## いよいよ大詰め、青森と山形が大接戦!

### '91 CMSCチャレンジカップ

'91年のモータースポーツ活動は、いかがでしたか。満足のゆく結果を得て、表彰台へ上がった人。来年

#### ●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
帯広	102	14	12		128
札幌	301	212	142		655
青森	622	814	305		1741
岩手	8	70	32		110
山形	512	461	705		1678
仙台	3	0	16		19
福島	0	0			0
栃木	22	38			60
群馬	343	226	111		680
埼玉	175	90	58		323
千葉	0	0			0
岐阜	230	147	182		559
愛知	96	20	100		216
大阪	-	140			140
島根	142	144	69		355
香川	378	346	82		806

こそはと燃えている人。マイペースを楽しんでいる人。それぞれに充実した年だったことと思います。

CMSCチャレンジカップも終盤に入り、ポイント争いが白熱してきました。CMSC青森とCMS

#### ●ラリー・ドライバー部門

梶 沢 宏 之	青森	242
大 西 康 弘	青森	170
渡 辺 俊 昭	山形	146
福 士 文 秀	青森	108
小 林 正 夫	群馬	102
館 山 正 嗣	青森	92
佐 々 木 透	愛知	79
長 沢 太 郎	埼玉	75
坂 本 均	青森	66
上 原 力	埼玉	54

#### ●ラリー・ナビゲーター部門

石 田 隆 雄	青森	240
今 野 泰 正	山形	122
安 田 弘 美	青森	108
金 子 誠 司	群馬	102
永 沢 裕 之	青森	80
山 崎 茂 樹	青森	66
高 柳 満	愛知	62
浅 沼 高 典	岩手	48
瀬 々 徹	埼玉	45
岩 崎 政 良	埼玉	34

#### ●ポイントのつけ方

ポイント	順位											
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
A	40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	0
B	20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0

リタイアには予選不通過も含む

C山形がデットヒートを繰り広げ、各部門の個人タイトルも、まだまだ順位の変動がありそうです。最終結果は、2月中旬に発表します。ご期待ください。

#### ●スラローム部門

高 竹 優 之	香川	370
櫛 田 正 文	岐阜	320
白 井 修	香川	244
荒 井 信 介	群馬	234
宝 田 芳 浩	札幌	226
鈴 木 功 敏	山形	210
小 館 久	青森	186
千 田 俊 二	札幌	168
福 士 文 秀	青森	166
近 藤 健 司	香川	152

#### ●レース部門

小 川 日 出 生	山形	440
鈴 木 一 彦	山形	112
東 江 誠	山形	74
長 沢 太 郎	埼玉	20
瀬 在 仁 志	埼玉	18
平 井 み つ よ	埼玉	18
並 木 松 雄	栃木	15
川 口 法 行	栃木	15
本 御 勝 義	仙台	8
吉 沼 昭 彦	栃木	4

A = ラリー………全日本選手権、JMRC地区最上級シリーズ  
スラローム……全日本スピード行事選手権、地方スピード行事選手権、JMRCシリーズ  
レース………全日本選手権、地方選手権、ミラージュカップ  
B = それ以外の競技会